

第三〇期中間

二〇一七年四月一日～九月三〇日

事業報告書

株式会社クレス



トップメッセージ

当社は、2017年7月23日に株式公開20周年を迎えることができました。また、来年は創立30周年を迎えます。ここまで当社が成長してきましたのは、日頃から格別のご支援をいただいております株主のみなさまのおかげです。心より、御礼申し上げます。



代表取締役会長
岩崎 俊雄

代表取締役 社長執行役員
根元 浩幸

期待を超えて、次のステージへ

「アルファ碁」で注目された人工知能(AI)が、今年に入ってから、第3のプラットフォーム(クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術)と合わさり、人工知能関連の様々なサービスが身近で提供されるようになりました。これからはIoT(Internet of Things:モノのインターネット)やロボティクスが加わり、2020年の東京オリンピックに向けて、更に急激に変化していきます。また、「働き方改革」の流れの中で、生産性向上と労働時間短縮を実現するために、業務の一部自動化が進んでいます。それらの変化は、市場の多様なニーズを満たすために全ての企業が直面し、体験する「劇的な変化」で、あらゆる企業・団体・産業が、デジタル技術を活用したビジネスモデルの革新を模索する、「デジタル変革」です。

その「劇的な変化」の時代の中でクレスコグループは、2016年4月に5ヶ年の新ビジョン『CRESCO Ambition 2020』をスタートしました。

CRESCO Ambition 2020

Lead the Digital Transformation

～ 『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。～

挑戦する企業集団

洗練された技術力と確かな品質

ひとりひとりが輝くクレスコ

『『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。』をスローガンに掲げ、当期は2年目として「期待を超えて、次のステージへ」を基本方針に、事業を推進し、12の重点施策に取り組んでいます。

今期の重点施策

- 旅行業界特化型組織の設置
- 中京地区ビジネス拡大に向けた、営業拠点の設置
- 現地調査と協業企業の開拓に向けた、ベトナム駐在員事務所の設置
- 人材交流による、グループシナジーの強化
- IT基盤関連事業の活性化推進
- 特命営業担当による、顧客リレーションシップの強化
- オフショア推進による、開発体制の強化
- 新規ビジネス創出に向けた、インキュベーション機能の強化
- M&Aの推進
- スペシャリスト制度の導入
- 働き方改革の実践と、働き易い職場作り
- コーポレートガバナンス体制の見直し

当中間期の経営環境と取組み

朝鮮半島の緊張の高まりなど、海外情勢に不透明感はあるものの、雇用状況の改善や個人消費の伸び、内需拡大などを背景に、経営環境は、引続き改善傾向となりました。企業の競争力と成長力を強化するための「第4次産業革命」「働き方改革」「労働力不足」に対する取組みは、ソフトウェア開発、システム開発の更なる需要を喚起しています。クレスコグループは、コア技術(アプリケーション開発技術、IT基盤システム構築技術、組込み技術)に先端技術(人工知能、ロボティクス、IoT等)を加えた幅広い事業領域を持っており、優位性を発揮できる機会となっています。

クレスコグループは新ビジョンのもと、受注量の維持・拡大および市場の変化に即したサービスの開発、先端技術の取込みに、的確かつ

スピーディに対応すべく、開発体制の強化(人材の確保、育成等)、品質管理、グループ間連携に注力するとともに、先端技術の研究、新規事業の創出、各種サービス・ソリューションの拡販などに努めました。

当中間期の主な取組み実績は、本書の「Topics」でご紹介していますので、ご覧ください。

決算のポイント

- ◆前年同期比、売上高10.3%増、営業利益29.9%増、経常利益31.4%増、純利益33.4%増の増収増益。
- ◆ソフトウェア開発事業は、「金融」で大型案件が一巡してベンダー経由の受注が減少、「流通・その他」でベンダー経由以外の受注が業績を牽引。
- ◆組込み型ソフトウェア開発事業は、「カーエレクトロニクス」で一部メーカーの受注が端境期、「情報家電等・その他」でデジタル情報家電が増し、制御系が堅調に推移。

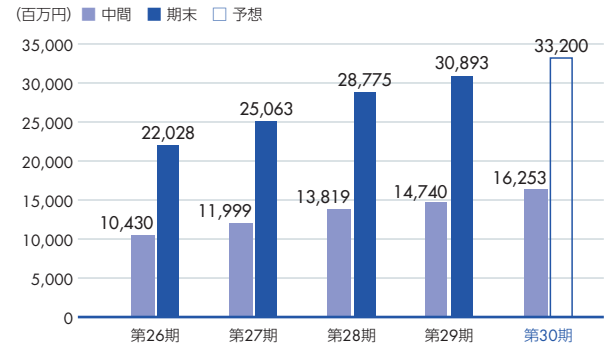
今期の見通し

2017年度後半の景気見通しは、業況判断が改善する中、「テンポは鈍くなるが、持ち直しが続く見込み」と言われていますが、地政学リスクや米国の政治動向、中国の景気失速懸念など、先行きの不透明感が拭いきれない状況です。しかし、省力化、競争力強化を主眼とした需要の増加や東京オリンピック、インバウンドへの対応などが下支えとなり、業界や業種で格差は生じるものの、IT投資のトレンドは変わらず、引き続き拡大傾向になる、と予測しています。また、情報サービス産業では、人工知能やIoT、ビッグデータといったデータを経営資源とするための管理基盤の構築、持続可能なIT基盤の構築や開発プロセスを確立するAPI(Application Programming Interface)エコノミーの活用、巧妙化するサイバー攻撃に対応するセキュリティ体制の確立など、ビジネス基盤の高度化を指向するトレンドの中、企業の「デジタル変革」に対する取組みが、一層加速すると予測しています。

クレスコグループは、「デジタル変革」をリードし、お客様がビジネスモデルの革新を通じて自らの成長を実感できる現実的な提案をスピーディに行うため、事業の柱であるソフトウェア開発事業、組込み型ソフトウェア開発事業において、技術および品質の面で更なる強化を図ってまいります。併せて、先端技術を積極的に取り込み、顧客の成長に寄与するサービスおよびソリューションを充実させ、社会に貢献してまいります。

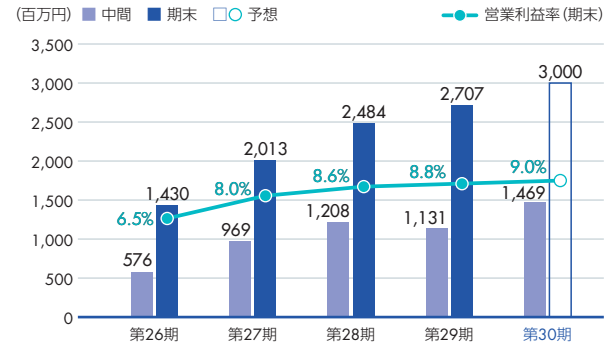
売上高

162億53百万円



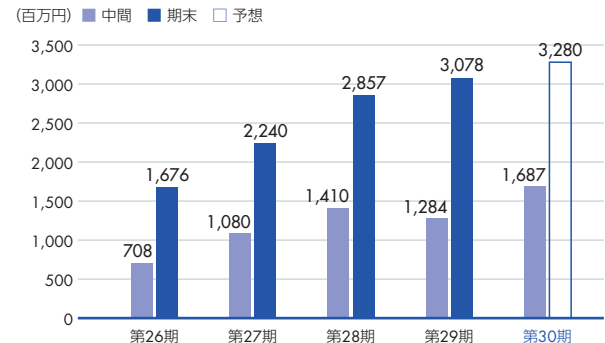
営業利益・営業利益率

14億69百万円



経常利益

16億87百万円

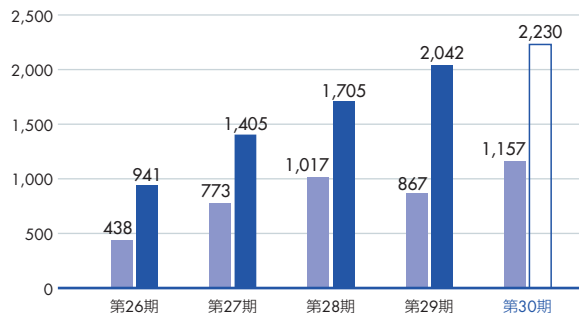


連結業績ハイライト

純利益 (親会社株主に帰属)

11億57百万円

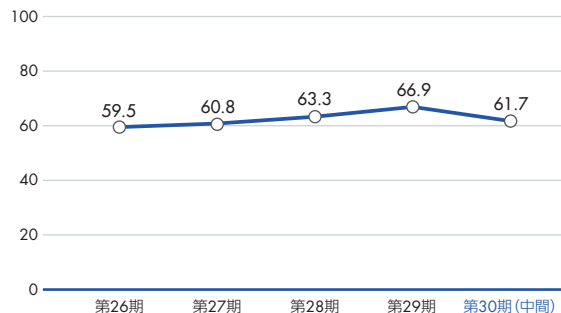
(百万円) ■ 中間 ■ 期末 □ 予想



自己資本比率

61.7%

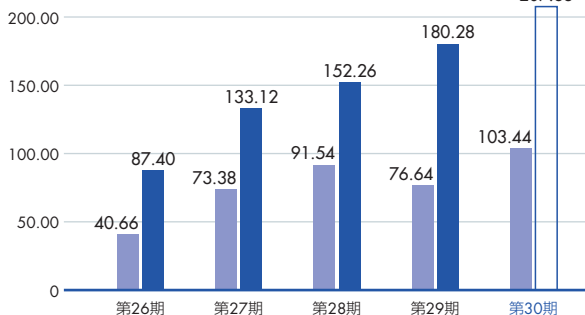
(%)



1株当たり純利益

103.44円

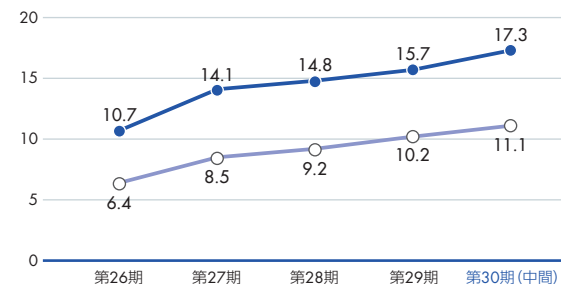
(円) ■ 中間 ■ 期末 □ 予想



ROA & ROE

ROA 11.1%
ROE 17.3%

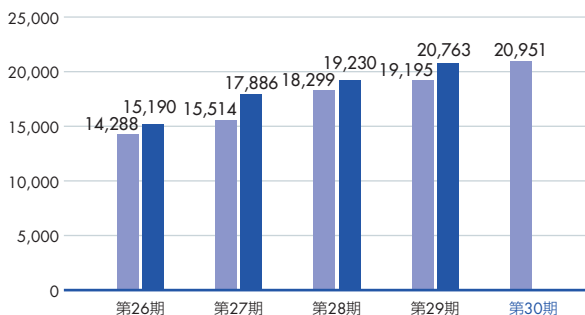
(%) ○ ROA ● ROE



総資産

209億51百万円

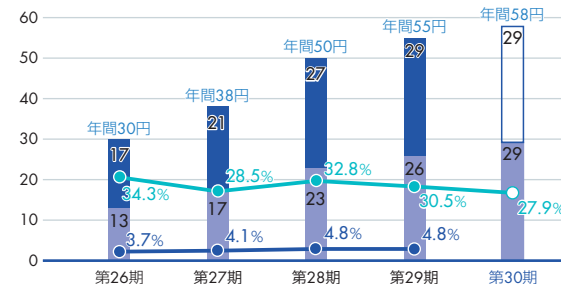
(百万円) ■ 中間 ■ 期末



1株配当金・配当性向・DOE

1株配当金 **29円**

■ 中間 ■ 期末 □ 予想
● 配当性向(期末) ● DOE(期末)

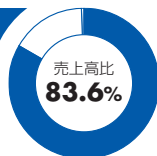


連結業績ハイライト

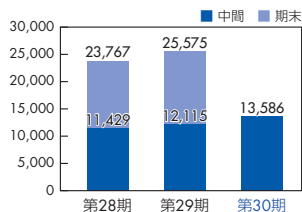
セグメント別概況

ソフトウェア開発

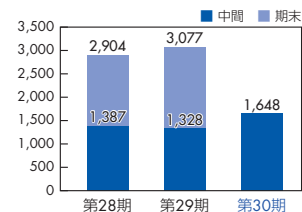
売上高 **135億86百万円**
営業利益 **16億48百万円**



売上高 (百万円)

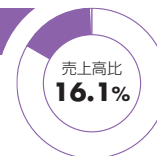


営業利益 (百万円)

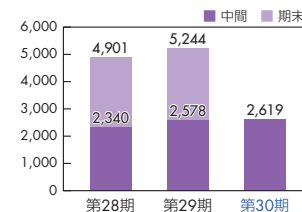


組み込み型ソフトウェア開発

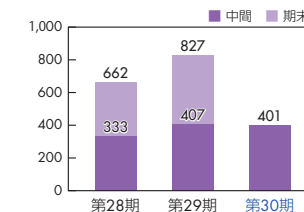
売上高 **26億19百万円**
営業利益 **4億1百万円**



売上高 (百万円)

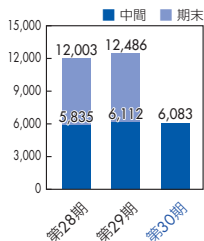


営業利益 (百万円)

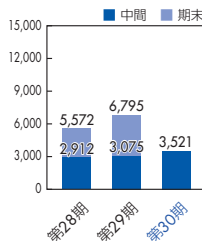


業種別売上高 (百万円)

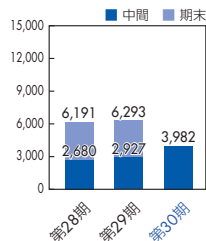
〈金融〉
銀行、保険、カード、証券 など



〈公共サービス〉
航空、鉄道、電力、放送、
医療、旅行、人材ビジネス など

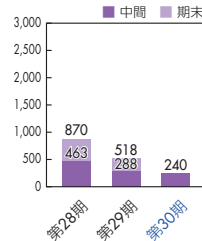


〈流通・その他〉
運輸、小売 など

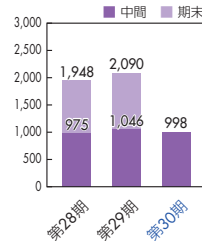


分野別売上高 (百万円)

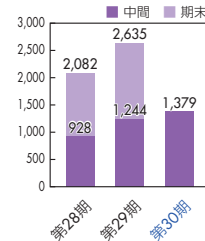
〈通信システム〉
携帯情報端末 など



〈カーエレクトロニクス〉
デジタルメーター、
センターディスプレイ など

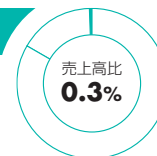


〈情報家電等・その他〉
デジタル家電、医療機器、
制御システム など

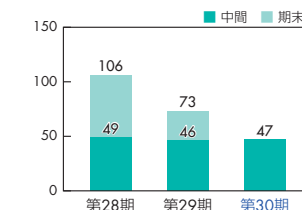


商品・製品販売

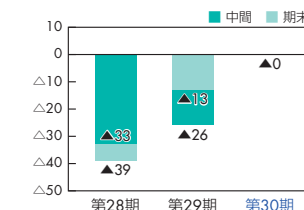
売上高 **47百万円**
営業利益 **▲0百万円**



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



配当方針

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置付けており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を継続することを基本方針としております。配当に関しましては、原則当社(単体)の経常利益をもとに特別損益を零(ゼロ)とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目的に、継続的に実現することを目指してまいります。

私たちはIT業界の「匠」です。



クレスコは、今まで「匠」として

アプリケーション開発技術、IT基盤システム構築技術、組込み技術

の3つの領域にわたるコア技術をビジネスの軸にしなが

ら、さまざまな仕組みづくりを手がけてまいりました。

特にITの基本部分を支えている

IT基盤システム構築技術や組込み技術においては、

創業以前とクレスコの創業年である1988年以降とを合わせると

40年近く。他社の追随を許さない技術の蓄積があります。

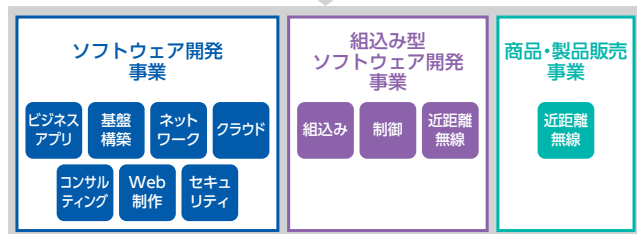
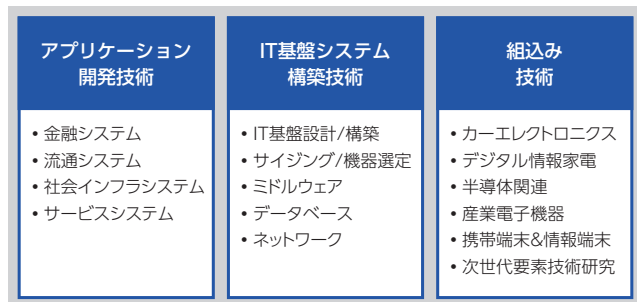
品質に対するこだわり。そして、現場尊重主義。

「匠」の精神で、お客様の信頼に応え、成長し続けてまいります。

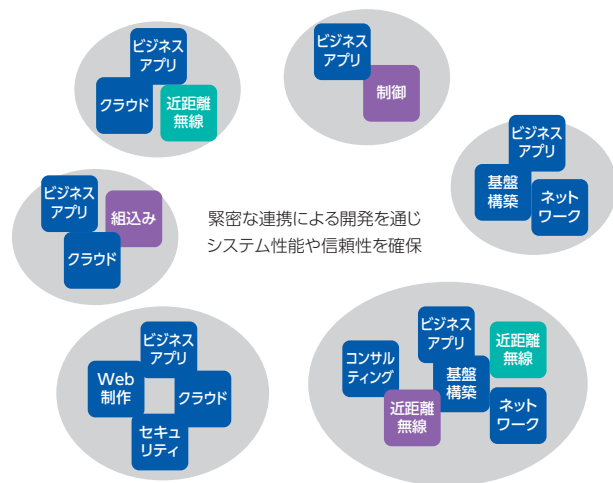
社名の由来

企業活動の成長が世界の人々の幸福に可能な限り最大の貢献をすること、そして、そこに働く人々が共に喜びと誇りをもち、自己の能力を最高に発揮できることが企業の使命であると考え、ラテン語で「成長する」という意味を持つ「CRESCO」を社名としております。

クレスコの強み①経験に支えられた3つのコア技術



クレスコの強み②コラボレーションによる事業の創造



IBM Watson導入支援サービス 「Minervae PoCKET」の販売を開始

日本アイ・ビー・エム株式
会社様と株式会社ソフト
バンク様が共同で開発さ



れた人工知能「Watson(ワトソン)」日本語版の導入を支援する
サービス「Minervae PoCKET(ミネルヴァ ポケット)」の販売を、
2017年4月24日から開始しました。

「Watson」を本格的に導入する前に、お手頃な価格で3か月間、
学習データ*の作成と事前検証ができます。お客様は、使い方や
効果をご納得いただいたうえで、本格的な導入に進むことがで
きるサービスです。

当社は、2015年7月に「Watsonエコシステムプログラム」にお
ける初期エコシステムパートナーに選定されました。以降、人工
知能関連事業では、「Watson」を核としたシステムの開発支援
を行っています。今回、「Minervae PoCKET」販売開始と同時に、
人工知能のサービスブランド「Minervae(ミネルヴァ)」を立ち
上げました。

*人工知能を「賢い知能」として活用するためには、たくさんのデータを用いて
学習させる必要があります。

ラジオ番組へ初出演

ラジオNIKKEI様が2017年7月17日の海の日に放送された「夏
のリスナー感謝DAY」の特別番組「アサザイ スペシャル」に、当
社社長が出演しました。

「アサザイ」は株式会社プロネクサス様提供の番組で、通常、毎週
水曜日の8:40~9:00に放送しています。番組パーソナリティ
のスプリングキャピタル株式会社の代表取締役 井上哲男氏が、
海外マーケットの動向・今日の個別材料・明日に向けての個別銘
柄を解り易く語る番組です。

なお、番組パーソナリティの井上氏には、当社の経営指標分析レ
ポートを作成いただいています。

*経営指標分析レポートの掲載ページ

https://www.cresco.co.jp/ir/library/analyst_report.html

人工知能 × SNS × 自動会話 × 画像識別 で 顧客サポート業務を支援

人工知能「Watson」日本語版を活用し、文字と画像を識別できる
チャットボット*サービス「Minervae ViBOT(ミネルヴァ ヴィ
ボット)」の提供を、2017年9月11日から開始しました。

従来のチャットボットは、入力した文字を識別して自動応答して
いましたが、「Minervae ViBOT」は文字の他に画像も識別して自
動応答します。コールセンターなどの顧客サポート業務でご利用
いただくと、言葉だけでは伝わりにくい情報でも画像を使い、解り
易く & 正しく & 素早く、やりとりできます。

本サービスは、不動産総合マネジメント業の株式会社ザイマック
ス様向けに開発したシステムを基に、サービス化しました。

*インターネットなどのデータ通信回線を利用してリアルタイムにコミュニ
ケーションできる、自動会話プログラム

人材育成への取組み

当社はかねてより、高い専門性を持つ人材育成に取り組んでいます。

◆プロジェクトマネジメント学会での研究発表

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会 (SPM) 主催の「2017
年秋季研究発表大会」で、当社社員がプロジェクトマネジメントに
関する論文「アジャイル開発プロジェクトにおける新人の成長事
例」を発表しました。

当社はプロジェクトのマネジメントを行うプロジェクトマネー
ジャー (PM) には、プロジェクトマネジメントの国際資格「PMP®」
の取得を義務付けるなど、PMの育成に力を入れています。

◆生命医科学専門誌への寄稿

ニュー・サイエンス社発行の「メディカル・サイエンス・ダイジェス
ト」2017年9月号に、当社社員が、名古屋市立大学大学院医学研究
科視覚科学分野 准教授 安川力様との共同執筆で、「人工知能を用
いた眼科画像の疾患分類」を寄稿しました。

当社の技術研究所は2016年から、人工知能を用いた眼科の画像診
断について、共同研究を行っています。

「名古屋開発センター」の開設

2017年8月1日付けで愛知県名古屋市に、「名古屋開発センター」を開設しました。当社の主力事業のひとつであるカーエレクトロニクス関連の需要が増加傾向にあり、また、東海地区は製造業の優良企業が多く存在しています。センターの開設は、事業機会の創出と、組込み型ソフトウェア開発のお客様拡大に繋がります。

4月1日に「中京開発センター」を組織として設け、準備を進めていました。

「科礼斯軟件(上海)有限公司」の清算結了

かねてより清算手続きを進めていた子会社「科礼斯軟件(上海)有限公司」の清算が、2017年9月25日に結了しました。

「科礼斯軟件(上海)」は、中国進出の日本企業に対するソフトウェア開発を主軸とした支援およびアジア地区における当社の商圏拡大を図るために、2012年6月に中国上海市に設立しました。設立直後から新規開拓や事業の継続、拡大を図りましたが、中国市場の縮小や日本企業の中国撤退等により、業績の低迷が続きました。今後とも当該事業の業績回復は見込めないことから、同社を解散、清算し、経営資源を他事業に集中することが、クレスコグループの今後の発展に重要であるとの結論に至り、清算手続きを進めていました。

子会社がM&Aにより体制を強化

2017年10月2日付けで子会社「アイオス」が、企業経営に関わるシステム開発を柱に事業を展開する「株式会社アプリケーションズ」を完全子会社化し、クレスコグループに孫会社が増えました。「アプリケーションズ」は受託開発の他に、スマートフォン向けアプリケーション開発、Webデザイン・制作、パッケージソフト開発・販売を行っています。

子会社化によって「アイオス」は、受注力向上、技術力の底上げ、人材の補強、事業領域の拡大を図ります。また、静岡市に支店があることから、クレスコグループの営業拠点の拡大にも繋がります。



「JPX日経中小型株指数」の構成銘柄に選定

株式会社東京証券取引所様および株式会社日本経済新聞社様



JPX-NIKKEI Mid Small

2017年度選定

が共同で算出する「JPX日経中小型株指数」の2017年度(2017年8月31日～2018年8月30日)構成銘柄(全200銘柄)に、当社株式が選定されました。

「JPX日経中小型株指数」は、「JPX日経インデックス400」の構成銘柄コンセプト「投資者にとって投資魅力の高い会社」を中小型株に適用することで、資本の効率的活用や投資者を意識した企業経営の意識を、より広範な企業に普及・促進を図ることを目指し、このような経営意識をもっている企業への投資ニーズに応えることが企図されています。構成銘柄は、東証1部、東証2部、マザーズ、JASDAQを主市場とする普通株式を対象に、投資者にとって投資魅力の高い中小型株200銘柄が、選定基準日である毎年6月最終営業日に選定され、8月最終営業日に定期入替が実施されます。

※JPX日経中小型株指数の概要

<https://www.jpjx.co.jp/markets/indices/jpx-nikkei400/01.html>

個人投資家向け会社説明会の開催予定

当中間期は、2017年7月に東京で日本インタビュー新聞社様主催の説明会、東京IPO様主催の説明会、2017年9月に東京で東京IPO様主催の説明会、マジカルポケット様主催の女性限定の説明会と、計4回の個人投資家向け説明会を行いました。

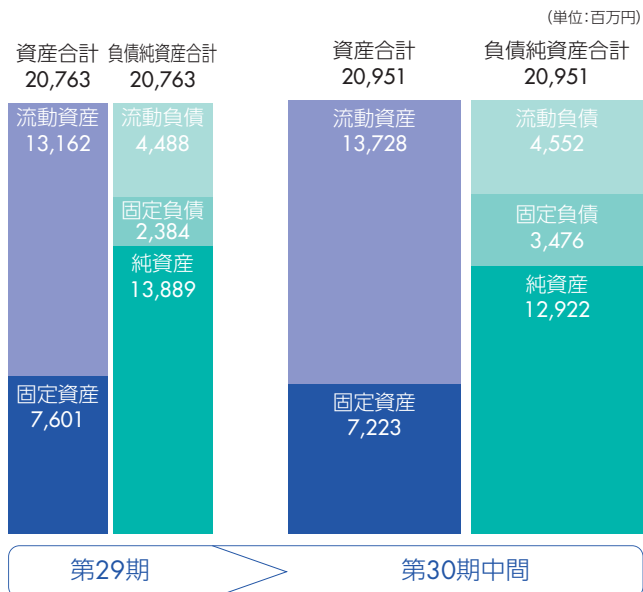
今後は、2017年12月に大阪で東京IPO様主催の説明会、博多で日本証券新聞社様主催の説明会、2018年3月に東京で東京IPO様主催の説明会を行う予定です。

ご参加いただいたみなさまからは、「受託開発会社のことが良く理解できた」とのお声をいただいております。開催が近くなりましたら、当社ホームページでお知らせいたしますので、ぜひ、ご参加ください。

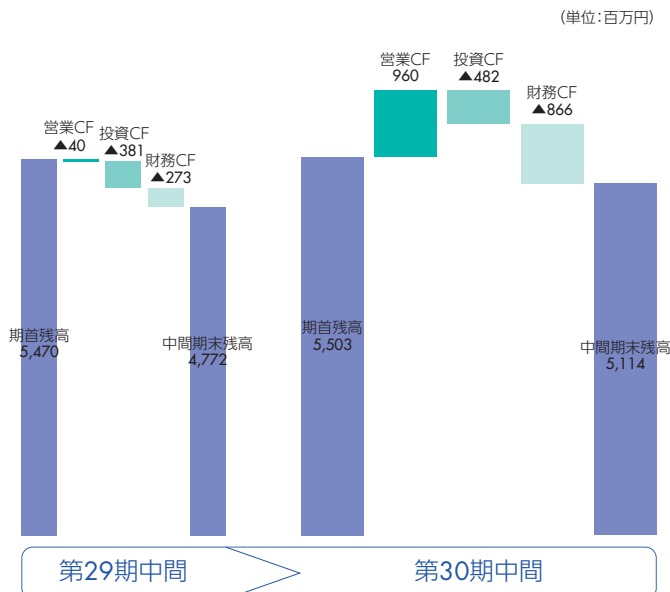
※個人投資家向け会社説明会の日程一覧ページ

<https://www.cresco.co.jp/ir/individual/briefing.html>

■ 貸借対照表の概要



■ キャッシュ・フロー計算書の概要



■ 流動資産

5億66百万円
(前年度末比)

現金および預金が3億97百万円減少したものの、有価証券が8億76百万円、受取手形および売掛金が77百万円それぞれ増加したことにより、前連結会計年度末に比べて5億66百万円増加し、137億28百万円となりました。

■ 固定資産

3億77百万円
(前年度末比)

投資有価証券が4億30百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べて3億77百万円減少し、72億23百万円となりました。

■ 流動負債

63百万円
(前年度末比)

未払法人税等が80百万円、受注損失引当金が59百万円、買掛金が56百万円それぞれ減少したものの、1年内返済予定の長期借入金金が2億59百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて63百万円増加し、45億52百万円となりました。

■ 固定負債

10億91百万円
(前年度末比)

長期借入金金が10億20百万円、退職給付に係る負債が76百万円それぞれ増加したことにより、前連結会計年度末に比べて10億91百万円増加し、34億76百万円となりました。

■ 純資産合計

9億66百万円
(前年度末比)

利益剰余金が8億28百万円増加したものの、自己株式が17億96百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて9億66百万円減少し、129億22百万円となりました。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

法人税等の支払額が5億35百万円、売上債権の増加額が78百万円、受注損失引当金の減少額が59百万円、仕入債務の減少額が56百万円あったものの、税金等調整前四半期純利益が17億10百万円あったことにより、9億60百万円の収入(前年同期40百万円の支出)となりました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資有価証券の売却による収入が12億28百万円、有価証券の売却による収入が6億86百万円、投資有価証券の償還による収入が3億23百万円あったものの、投資有価証券の取得による支出が13億92百万円、有価証券の取得による支出が11億63百万円、有形固定資産の取得による支出が71百万円あったことにより、4億82百万円の支出(前年同期3億81百万円の支出)となりました。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入による収入が13億円あったものの、自己株式の取得による支出が18億18百万円、配当金の支払い額が3億28百万円あったことにより、8億66百万円の支出(前年同期2億73百万円の支出)となりました。



ホームページのご案内

最新のIR情報や
財務データ、決算関連資料を
掲載しております。
ぜひ、ご利用ください。

<https://www.cresco.co.jp/>

取締役



代表取締役 会長
岩崎 俊雄 Toshio Iwasaki
1940年11月30日生



代表取締役 社長執行役員
根元 浩幸 Hiroyuki Nemoto
1960年2月12日生



取締役 専務執行役員
事業部門、技術研究所 管掌
兼 事業開発本部長
山元 高司 Takashi Yamamoto
1960年10月11日生



取締役 常務執行役員
財務経理本部長
杉山 和男 Kazuo Sugiyama
1964年9月1日生



取締役 常務執行役員
経営管理本部長
兼 経営戦略統括部長
富永 宏 Hiroshi Tominaga
1967年1月9日生



取締役 常務執行役員
グループ事業推進本部長
菅原 千尋 Chihiro Sugawara
1958年9月27日生



取締役(非常勤)
(株)クリエイティブジャパン 代表取締役社長
熊澤 修一 Shuuichi Kumazawa
1956年9月30日生

監査等委員



取締役 常勤監査等委員
丹羽 蔵王 Kurao Niwa
1955年11月13日生

執行役員



社外取締役 監査等委員
臼井 義真 Yoshimasa Usui
1949年2月11日生



社外取締役 監査等委員
佐藤 治夫 Haruo Sato
1956年11月27日生



常務執行役員
第一事業本部長
菊池 淳 Atsushi Kikuchi
1960年2月2日生



常務執行役員
第二事業本部長
藤谷 栄樹 Masaki Fujiya
1959年10月23日生



執行役員
事業開発本部副本部長
兼 技術研究所長
丸山 規行 Noriyuki Maruyama
1961年6月19日生



執行役員
第二事業本部副本部長
兼 第二ビジネスソリューション事業部長
下川 恭正 Yasumasa Shimokawa
1967年3月27日生




執行役員
事業開発本部副本部長
兼 サービスコンピテンシー統括部長
工藤 博徳 Hironori Kudou
1965年3月21日生



執行役員
グループ事業推進本部副本部長
高石 哲 Satoshi Takaishi
1962年5月26日生

1 株式会社クレスコ 本社
2 北海道開発センター
3 長岡開発センター
4 名古屋開発センター




事業内容

- ビジネス アプリ
- 基盤 構築
- クラウド
- コンサル ティング
- 組込み
- 近距離 無線

連結子会社


5 クレスコ・イー・ソリューション株式会社



事業内容

- ビジネス アプリ
- クラウド
- コンサル ティング

6 クレスコ ワイヤレス株式会社



事業内容

- 近距離 無線
- 近距離 無線

7 株式会社アイオス 本社
8 関西営業所



事業内容

- ビジネス アプリ
- 基盤 構築

9 クレスコ九州株式会社



事業内容

- ビジネス アプリ

10 クレスコ北陸株式会社



事業内容

- ビジネス アプリ


11 株式会社シーズリー



事業内容

- 制御
- 組込み


12 株式会社クリエイティブジャパン



事業内容

- 基盤 構築
- ネット ワーク
- セキュ リティ
- ビジネス アプリ

13 メディア・マジック株式会社




事業内容

- Web 制作
- ビジネス アプリ
- 基盤 構築
- コンサル ティング

グループ各社の連携を密に、その総合力を発揮して、さらなるビジネスの拡大にチャレンジしてまいります。

14 株式会社エヌシステム




事業内容

- ビジネス アプリ
- 基盤 構築
- コンサル ティング

係会社

15 株式会社アプリケーションズ 本社
16 静岡支店



事業内容

- ビジネス アプリ
- Web 制作
- クラウド

関連会社


17 株式会社ウエイン



事業内容

- ビジネス アプリ
- コンサル ティング

18 ビュルガーコンサルティング株式会社



事業内容

- コンサル ティング


19 株式会社エル・ティー・エス



事業内容

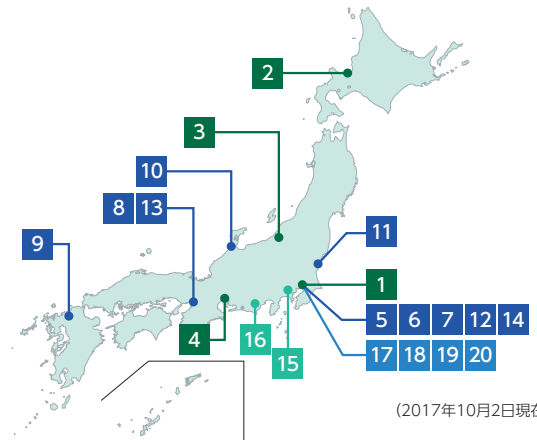
- コンサル ティング

20 株式会社イー・アイ・エム スタッフ



事業内容

- ビジネス アプリ
- 基盤 構築



(2017年10月2日現在)

株式の状況

(2017年9月30日現在)

発行可能株式総数	34,000,000株
発行済株式の総数	10,740,432株
	(自己株式1,259,568株を除く)
株主数	2,586名

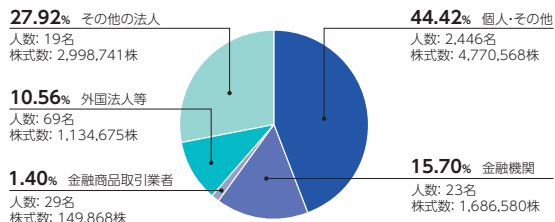
大株主

(2017年9月30日現在)

株主名	持株数(百株)	議決権比率(%)
有限会社イワサキコーポレーション	28,396	26.52
浦崎 雅博	11,818	11.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,113	8.51
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	5,500	5.13
佐藤 和弘	4,816	4.49
クレスコ従業員持株会	4,471	4.17
田島 裕之	4,448	4.15
岩崎 俊雄	3,042	2.84
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,556	1.45
ユニオンツール株式会社	1,508	1.40

所有者別株式分布状況(自社保有分を除く)

(2017年9月30日現在)



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	中間:9月30日 期末:3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 [TEL] ☎ 0120-232-711 (通話料無料) [送付先] 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	日本経済新聞に公告いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



会社概要


商号	株式会社クレスコ
設立	1988年4月
資本金	25億1,487万5,803円
従業員数	1,081名(男性:859名 女性:222名)
所在地	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本社 〒108-6026 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟 25階～27階 TEL : 03-5769-8011 FAX : 03-5769-8019 ■ 北海道開発センター 〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西3-1 札幌北三条ビル 2階、11階 TEL : 011-200-5550 FAX : 011-200-5665 ■ 長岡開発センター 〒940-0071 新潟県長岡市表町1-11-1 長岡フロントビル 4階 TEL : 0258-30-0370 FAX : 0258-33-1771 ■ 名古屋開発センター 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-38-2 オーキッドビル 3階 TEL : 052-589-9045 FAX : 052-589-9025
事業内容	情報処理システムに関する <ul style="list-style-type: none"> ■ コンサルティングおよびソリューションサービス業務 ■ 設計、開発業務 ■ 運用管理、保守業務 ■ 調査、分析、評価および技術支援業務

(2017年10月2日現在)

IRのお問合せ 広報IR推進室

Mail: ir@creSCO.co.jp
TEL: 03-5769-8058





東京証券取引所 市場第一部
証券コード 四六七四

